

研究課題 (テーマ)		1年教養ゼミで学生の起業意識を膨らませる —TPU シリコンバレー・アントレプレナー研修への道— (実施)	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	教授	平野 嘉孝
		准教授	清水義彦
研究結果の概要			
<p>&lt;遂行内容&gt;</p> <p>前期は、企業の課題解決に取り組む15週とした。卒業後に働く社会が求める能力と、現在の自己能力とのギャップを実感させ、学部教育への目的意識を醸成する期間と位置付けた。北陸コカ・コーラボトリング、北陸博報堂の2社と連携し、課題解決型キャリア教育講座を開講した。18歳の学生たちが、企業人に対し若者目線の提案を行う緊張感を創出したのは、ひとえに企業側の真剣な姿勢である。彼らの「本気度」が学生の探究活動を深化させ、その過程こそが「起業家精神」への入り口になると確信した。</p> <p>後期は、地域の課題解決と行政への提案の15週とした。実践の場に滑川市を選定し、市役所職員が各チームに伴走する体制を整えた。「ほたるいかミュージアム」の閑散期対策や「タラソピア」跡地利用、公園の魅力向上、駅からベイエリアへの導線確保といった具体的な市課題に注力した。最終的に滑川市長および各部局長へ直接提言を行い、高い評価を得ることができた。</p> <p>&lt;キャリア形成活動による成果&gt;</p> <p>申請時の目標は、以下の3点であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生が「社会で働くとは何か」を考え、起業を志す者はその動機を深掘りすること</li> <li>② 学生が、「社会で求められる力」と「今の自分の力」とのギャップを自覚すること</li> <li>③ 学生が、現在の勉学にビジネス視点を加え、社会変革につなげる認識を持つこと</li> </ol> <p>前期における企業人の指導の成果として、後期の滑川市での課題解決講座では、アイデア大会にとどまらず、実現可能性を意識した提案にまとめることができた。その結果、12月25日の最終提案後、市役所各部署から以下の反応を得た。</p> <p>チーム・ほたるいかミュージアム：発表会后、市から提案内容に関する見積もり依頼あり  チーム・滑川駅からベイエリアへの導線：市の施策案に盛り込まれる可能性あり  チーム・タラソピア跡地利活用：パブリックコメント募集に向けたたたき台へ  チーム・はなます公園の魅力づくり：提案したブランコや緑地化について今後提案を継続</p> <p>また、1月22日に開催された地域協働授業成果発表会においても、学生・教職員・一般参加者から高い評価を受け、最多投票を獲得して「ポスター賞」を受賞した。</p> <p>チーム・ほたるいかミュージアムは、発表後、春休みから市役所と事業実現に向けた活動を継続している。さらに、3月のシリコンバレーでのアントレプレナーシップ研修には、昨年度本事業に参加した昨年の1年生に加え、今年度の1年生も参加した。本事業を通じて、「起業家精神」を醸成し、夢の実現に向け主体的に行動する学生が現れ始めている。</p>			
今後の展開			
滑川市との本事業を継続し、次年度生がさらにブラッシュアップする展開を考えている。そのベースとなるのが前期の企業人との課題解決講座である。新たな企業を加え2社スタートする。			

(様式1)【ホームページ掲載用】